

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

PAT-NO: JP411155452A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11155452 A

TITLE: SUPPORTING TOOL FOR FISHING ROD  
HOLDER AND FISHING ROD  
HOLDER

PUBN-DATE: June 15, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NAKANO, MASARU

COUNTRY

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NAKANO MASARU

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP09331355

APPL-DATE: December 2, 1997

INT-CL (IPC): A01K097/10

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a supporting tool for a fishing rod holder and a fishing rod holder capable of holding a fishing rod at a desired angle independent of the direction of a post-driving gap between rocks or tetrapods.

SOLUTION: This fishing rod holder 2 is composed of a holder part 3 and a supporting tool 1 for supporting the holder part. The holder part 3 is composed of a holder base part 20, a front-receiving part 29 extended forward from the holder base part 20 and supporting a fishing rod 56, a back supporting

part 30 extended backward from the holder base part 20 and supporting the upper face of the fishing rod 56 and a holder post 31 (the upper post 36) vertically extended under the holder base part 20. The supporting tool 1. is provided with a post-fixing part 4 to detachably hold the holder post 31, a supporting tool post 15 (the lower post 37) to be driven into the gap between rocks or the like and a 1st pivoting part 34 (a 2nd pivoting part 35) placed between the post fixing part 4 and the supporting tool post 15 and holding the post fixing part 4 at arbitrary vertical and lateral angles relative to the supporting tool post 15.

COPYRIGHT: (C)1999, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-155452

(43)公開日 平成11年(1999)6月15日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

識別記号

FI

A O 1 K 97/10

A 0 1 K 97/10

$$\mathbf{z}$$

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平9-331355

(22)出願日 平成9年(1997)12月2日

(71)出願人 597168332

中野 勝

和歌山県和歌山市梅原382

(72)発明者 中野 勝

和歌山県和歌山市梅原382

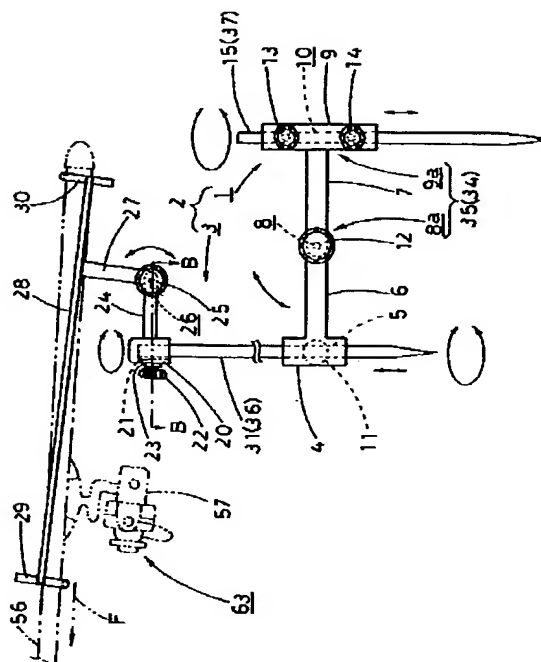
(74)代理人 弁理士 杉本 巖 (外1名)

(54) 【発明の名称】 釣竿ホルダ用の支持具および釣竿ホルダ

(57) 【要約】

【課題】 支柱が打ち込まれる岩やテトラポットなどの隙間がいかなる向きであろうとも、釣竿を所望の角度で保持することのできる釣竿ホルダ用の支持具および釣竿ホルダを提供すること。

【解決手段】 この釣竿ホルダ2はホルダ部3とこれを支持する支持具1とからなっている。ホルダ部3は、ホルダ基部20と、ホルダ基部20から前方に延出して設けられ釣竿56を載置支持する前受部29と、ホルダ基部20から後方に延出して設けられ釣竿56の上面を支持する後受部30と、ホルダ基部20の下部に垂設されたホルダ支柱31（上部支柱36）とを有してなっている。支持具1は、ホルダ支柱31を着脱可能に保持する支柱固定部4と、岩などの隙間に打ち込まれる支持具支柱15（下部支柱37）と、支柱固定部4と支持具支柱15との間に介設され、支持具支柱15に対し支柱固定部4を上下左右方向に角度可変に保持する第1の枢支部34（第2の枢支部35）とを備えた構成にしてある。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホルダ基部と、ホルダ基部から前方に延出して設けられ釣竿を載置支持する前受部と、ホルダ基部から後方に延出して設けられ釣竿の上面を支持する後受部と、ホルダ基部の下部に垂設されたホルダ支柱とを有する釣竿ホルダを、保持する支持具であって、釣竿ホルダのホルダ支柱を着脱可能に保持する支柱固定部と、岩などの隙間に打ち込まれる支持具支柱と、支柱固定部と支持具支柱との間に介設され、支持具支柱に対し支柱固定部を上下左右方向に角度可変に保持する第1の枢支部とを備えてなることを特徴とする釣竿ホルダ用の支持具。

【請求項2】 釣竿ホルダのホルダ基部に対しホルダ支柱を着脱可能に構成し、第1の枢支部に対しては支持具支柱を着脱可能に構成するとともに、ホルダ支柱と支持具支柱とをそれぞれ互換可能に形成したことを特徴とする請求項1に記載の釣竿ホルダ用の支持具。

【請求項3】 ホルダ基部と、ホルダ基部から前方に延出して設けられ釣竿を載置支持する前受部と、ホルダ基部から後方に延出して設けられ釣竿の上面を支持する後受部と、ホルダ基部の下部に垂設されたホルダ支柱とを有する釣竿ホルダであって、ホルダ支柱を上部支柱と下部支柱とに分割して構成し、下部支柱に対し上部支柱を上下左右方向に角度可変に保持する第2の枢支部を介して、上部支柱と下部支柱とを連結したことを特徴とする釣竿ホルダ。

【請求項4】 前受部と後受部は、それぞれの間に、釣竿に取り付けられたリールの配置空間を有して配置されていることを特徴とする請求項3に記載の釣竿ホルダ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、支柱が打ち込まれる岩場やテトラポットなどの隙間の向きによらず、釣竿を所望の角度に保持できるようにした釣竿ホルダ用の支持具および釣竿ホルダに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】一般に、テトラポットや岩場などの上には平らな場所が少なく、釣竿をそのまま置いておける場所がほとんどない。また、汎用されているカーボンロッド製の釣竿は非常に軽いため、単に置いておくだけで強い風に吹き飛ばされることがある。そこで、磯や防波堤などでは釣竿を簡便に保持する釣竿ホルダが汎用されている。

【0003】このような釣竿ホルダとしては、例えば実公平6-42468号公報に開示されたものが挙げられる。かかる釣竿ホルダは、ホルダ基部から前方に延出して設けられて釣竿を載置支持する前受部と、ホルダ基部から後方に延出して設けられて釣竿の上面を支持する後受部と、ホルダ基部の下部に垂設されて下端が岩場やテトラポットの隙間に打ち込まれるホルダ支柱とからなっ

ている。この釣竿ホルダでは、前受部と後受部からなる竿受部が、ホルダ基部に対し上下方向約15度程度まで角度可変に設けられている。一方、防波堤の外側に多数積み重ねられたテトラポット間には、必ずといっていいほど10mm幅以上の圧接部分が存在している。また、これらの圧接部分の周辺には、釣竿ホルダのホルダ支柱を差し込める隙間が存在している。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、前記公報開示の釣竿ホルダにおいて、竿受部は上下方向角度を大きく変えられないので、ホルダ支柱をほぼ垂直に近い向きで打ち込まないと、竿受部が極端に傾いて役に立たなくなる。それに対し、テトラポット間の隙間の向きは様々であり、必ずしも垂直方向であるとは限らない。これは沖磯や地磯の岩場においても同様である。そのため、せっかくの釣竿ホルダを磯などに持参しても使用できないことがあった。

【0005】本発明は、上記した従来の問題点に鑑みてなされたものであって、支柱が打ち込まれる岩やテトラポットなどの隙間がいかなる向きであろうとも、釣竿を所望の角度で保持することのできる釣竿ホルダ用の支持具および釣竿ホルダの提供を目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係る釣竿ホルダ用の支持具は、ホルダ基部と、ホルダ基部から前方に延出して設けられ釣竿を載置支持する前受部と、ホルダ基部から後方に延出して設けられ釣竿の上面を支持する後受部と、ホルダ基部の下部に垂設されたホルダ支柱とを有する釣竿ホルダを、保持する支持具であって、釣竿ホルダのホルダ支柱を着脱可能に保持する支柱固定部と、岩などの隙間に打ち込まれる支持具支柱と、支柱固定部と支持具支柱との間に介設され、支持具支柱に対し支柱固定部を上下左右方向に角度可変に保持する第1の枢支部とを備えた構成にしてある。

【0007】また、前述の構成における、釣竿ホルダのホルダ基部に対しホルダ支柱を着脱可能に構成し、第1の枢支部に対しては支持具支柱を着脱可能に構成するとともに、ホルダ支柱と支持具支柱とをそれぞれ互換可能に形成したものである。

【0008】そして、本発明に係る釣竿ホルダは、ホルダ基部と、ホルダ基部から前方に延出して設けられ釣竿を載置支持する前受部と、ホルダ基部から後方に延出して設けられ釣竿の上面を支持する後受部と、ホルダ基部の下部に垂設されたホルダ支柱とを有する釣竿ホルダであって、ホルダ支柱を上部支柱と下部支柱とに分割して構成し、下部支柱に対し上部支柱を上下左右方向に角度可変に保持する第2の枢支部を介して、上部支柱と下部支柱とを連結したものである。

【0009】更に、前述の構成において、前受部と後受

部は、それぞれの間に、釣竿に取り付けられたリールの配置空間を有して配置されたものである。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基いて説明する。

発明の実施の形態1. 図1は本発明の一実施形態に係る釣竿ホルダ用の支持具を示す側面図、図2は図1におけるA-A線断面図である。各図において、1は市販の釣竿ホルダ2aを保持固定する支持具である。支持具1の材質は特に限定されないが、ここではほとんどの部品が10 錆に強いステンレス鋼で形成され、固着箇所はTIG溶接などにより取り付けられている。この支持具1は、釣竿ホルダ2a下部に設けられたホルダ支柱55を着脱可能に保持する筒状の支柱固定部4と、岩やテトラポットなどの隙間に打ち込まれる支持具支柱15と、支持具支柱15に対し支柱固定部4を上下左右方向に角度可変に保持する第1の枢支部34などから構成されている。

【0011】第1の枢支部34は支柱固定部4と支持具支柱15との間に介設されており、支持具支柱15に対し釣竿ホルダ2aを上下方向360度にわたって角度可変に保持する上下枢支部8aと、支持具支柱15に対し釣竿ホルダ2aを左右方向360度にわたって角度可変に保持する左右枢支部9aとからなっている。左右枢支部9aは、円筒状の支柱固定部9と、支柱固定部9の筒心方向に貫通して形成され支持具支柱15を挿通できる筒孔10と、支柱固定部9の側面に上下2ヵ所設けられた雌ねじ部19と、上下の雌ねじ部19に螺合される把手付ボルト13および把手付ボルト14とからなっている。

【0012】上下枢支部8aは、支柱固定部4の側面に突設された連結腕6の先端に形成された枢支孔18と、支柱固定部9の側面に突設された連結腕7の先端に形成された枢支孔8と、連結腕6先端の片面に設けられた雌ねじ部17と、枢支孔8、18に挿通され雌ねじ部17に螺合される把手付ボルト12とからなっている。そして、支柱固定部4には、ホルダ支柱55を挿通できる筒孔5が筒心方向に貫通して形成されている。また、支柱固定部4の側面には、雌ねじ部16が設けられており、雌ねじ部16にはホルダ支柱55を固定保持するための把手付ボルト11が螺合されるようになっている。尚、40 支柱固定部4、9の筒孔5、10は、ホルダ支柱55や支持具支柱15を遊嵌状に挿通できるように、各支柱の外径よりも大径に形成しておくのが望ましい。これにより、上記のような市販の釣竿ホルダ2aであってもそのまま使用できる。

【0013】また、市販の釣竿ホルダ2aは、前方で釣竿56を載置支持する前受部51と、後方で釣竿56の上面に係合支持する後受部52と、前受部51と後受部52を連結する接続杆53と、接続杆53の下部に設けられた支持体50と、把手付ボルト54のネジ止めによ

り支持体50の角度を約15度程度まで変えて保持できるホルダ基部62と、ホルダ基部62の下部に垂設されたホルダ支柱55とからなっている。

【0014】上記のように構成されたこの実施形態の支持具1は、支持具支柱15に対し、左右枢支部9aの把手付ボルト13および把手付ボルト14を弛めたり締めたりすることにより、釣竿ホルダ2aを左右方向に揺動させたり上下位置を調整することができる。また、上下枢支部8aの把手付ボルト12を弛めたり締めたりすることにより、釣竿ホルダ2aを上下方向に揺動させることができる。更には、把手付ボルト11を弛めたり締めたりすることにより、釣竿ホルダ2aを左右方向に揺動させたり上下位置を調整することもできる。従って、支持具支柱15が打ち込まれる岩場やテトラポットなどの隙間がいかなる向きであろうとも、釣竿ホルダ2aひいては釣竿56を上下左右いずれの方向にも所望の角度に保持することができる。

【0015】発明の実施の形態2. 図3は本発明の一実施形態に係る一体型の釣竿ホルダを示す側面図、図4は図3におけるB-B線断面図、図5は前記釣竿ホルダの斜視図である。この実施形態の釣竿ホルダ2は、実施形態1で詳説した支持具1と、釣竿56を保持するためのホルダ部3とから一体的に構成されている。この釣竿ホルダ2では、支持具支柱15（ホルダ支柱を分割した場合は下部支柱37に相当する）に対しホルダ支柱31（ホルダ支柱を分割した場合は上部支柱36に相当する）を上下左右方向に角度可変に保持する第2の枢支部35を介して、ホルダ支柱31と支持具支柱15とが連結されている。第2の枢支部35は前述した第1の枢支部34と同様に、上下枢支部8aと左右枢支部9aとからなっている。

【0016】釣竿ホルダ2のホルダ部3は、前端部に正面U字状の前受部29を有し後端部に倒立U字状の後受部30を有する接続杆28と、接続杆28の下部に垂設され下端部に枢支孔33を有する連結腕27と、上部支柱36の上端が挿通される取付穴21を有するホルダ基部20と、ホルダ基部20の側面に設けられた雌ねじ部23と、雌ねじ部23に螺合される把手付ボルト22と、ホルダ基部20の側面に突設され先端に枢支孔26を有する連結腕24と、連結腕27下端部の片面に設けられた雌ねじ部32と、枢支孔26、33に挿通され雌ねじ部32に螺合される把手付ボルト25とからなっている。

【0017】また、釣竿ホルダ2は、ホルダ基部20に対しホルダ支柱31が着脱可能に構成されており、支持具の第1の枢支部34に対し支持具支柱15が着脱可能に構成されている。そして、ホルダ支柱31（または上部支柱）と支持具支柱15（または下部支柱）とは、それぞれ互換可能に形成されている。

【0018】ところで、市販の釣竿ホルダ2a（図1参

照)であると、前受部51と後受部52間の直下に接続杆53が存在するので、釣竿56を前受部51と後受部52で保持するにあたっては、リール57を前受部51の前方に配置する必要がある。そのため、引きの大きな魚信があった場合に、リール57もろとも釣竿56が矢印F方向に持ち逃げされることがあった。これに対し、この実施形態の釣竿ホルダ2では、前受部29と後受部30が接続杆28から側方に突出した位置に配置されている。これにより、前受部29と後受部30間の下方にリール57を支障なく配置できる配置空間63が形成されるので、魚の強い引きがあった場合でも、リール57は前受部29に係合して止まる。従って、釣竿56が海中に持ち逃げされたりしない。

【0019】一方、この釣竿ホルダ2では、まず把手付ボルト25の操作により接続杆28を枢支孔26、33廻りに折り畳んでホルダ支柱31に沿わせ、次に把手付ボルト12の操作により接続杆28およびホルダ支柱31を枢支孔8、18廻りに折り畳んで支持具支柱15に沿わせるだけで、図6に示すように、釣竿ホルダ2全体をコンパクトに折り畳むことができる。従って、釣竿ホルダ2は携帯性がよく、足場の険しい磯やテトラポット上でも支障なく持ち運びすることができる。

【0020】そうして、図7に示すように、釣竿ホルダ2は例えば磯の岩場58などで使用される。まず、支持具支柱15の先端を岩場58の隙間59に打ち込む。このとき、支持具支柱15は支柱固定部9の筒孔10に対し図3〜図6の場合とは逆向きに差し入れて用いられる。そして、支柱固定部9の筒孔10に、支持具支柱15の他端部を差し入れ把手付ボルト13、14を締めて固定する。次に、把手付ボルト12によりホルダ支柱31の傾きを決める。また、把手付ボルト11によりホルダ支柱31の左右方向の角度や上下位置を決める。更に、把手付ボルト25により前受部29および後受部30の角度を決めるようになっていく。これにより、支持具支柱15を打ち込むべき岩場の隙間が垂直方向のものでなくても、ホルダ支柱31や前受部29および後受部30などを所望の向きに配置させることができる。

【0021】一方、上方に覆い被さった岩場60(図中2点鎖線で示す)があって、その奥まった場所に適当な割れ目や裂け目などの隙間59があるような場所において、図7に示した使用態様ではホルダ部3が岩場60と干渉するため、使用することができない。ところが、図8に示すように、釣竿ホルダ2は長さの異なるホルダ支柱31と支持具支柱15とを互いに取り換えて使用できるようになっている。そこで、岩場60の隙間61に打ち込まれる支柱として長尺のホルダ支柱31を用い、ホルダ部3には短尺の支持具支柱15を用いると、支障なく設置することができる。すなわち、釣竿ホルダ2はホルダ支柱31と支持具支柱15の寸法に対応させて種々の使用態様で用いることができるのである。

【0022】発明の実施の形態3。また、本発明は市販の釣竿ホルダ(図1参照)を改造することにより、第2の枢支部を有する一体型の釣竿ホルダとして用いることもできる。すなわち、図9に示すように、この釣竿ホルダ2bでは、ホルダ支柱が上部支柱36と下部支柱37aとに分割して構成されている。この釣竿ホルダ2bに用いられる第2の枢支部35は、既述の上下枢支部8aと、上部支柱36の左右方向の向きと上下位置を決める左右枢支部4aとからなっている。左右枢支部4aは、支柱固定部4の筒孔5と、支柱固定部4の雌ねじ部16(図2参照)と、雌ねじ部16に螺合して上部支柱36を固定、解除する把手付ボルト11とから構成されている。

【0023】そこで、上記構成の釣竿ホルダ2bでは、下部支柱37aの上端をハンマーなどで叩いて、下部支柱37aの先端がテトラポットなどの隙間に打ち込まれる。その際、下部支柱37aがいかなる向きに打ち込まれても、第2の枢支部35の機能により、前受部51および後受部52については釣竿を上下左右いずれの方向にも所望の角度で保持することができる。加えて、前記の効果を有しているにも拘らずコンパクトな釣竿ホルダを提供できる。

【0024】尚、上述した各々の実施形態では、把手付ボルトと、ナットに代表される雌ねじ部とを用いたが、雌ねじ部の取付位置にボルトを固定し、把手付ボルトに代えて把手付ナットを前記の固定したボルトに螺合させるようにしてもよい。また、把手付ボルト11、12、13、14、22、25の把手部の形状は上述した円盤状のものに限らず、例えばL字状のもの、蝶形状のもの、或いはT字状のものであっても構わない。

【0025】また上記では、上下方向に角度可変とする枢支部と、左右方向に角度可変とする枢支部とを別々に設けたが、本発明はそれに限定されるものではなく、上下方向と左右方向のいずれにも自在に角度可変とする、例えばユニバーサル継手を、ホルダ支柱を保持する支柱固定部と、支持具支柱との間に介設することも可能である。

【0026】

【発明の効果】以上述べたように、本発明に係る釣竿ホルダ用の支持具によれば、支持具支柱に対し、支柱固定部を上下左右方向に角度可変に保持する第1の枢支部を備えているので、支持具支柱が打ち込まれる岩場などの隙間がいかなる向きであろうとも、釣竿を所望の角度に保持することができる。また、この支持具は市販の釣竿ホルダをそのまま支持させることもできるので、既に釣竿ホルダを所有している釣り人にとっても好都合である。

【0027】また、釣竿ホルダのホルダ支柱と支持具の支持具支柱とをそれぞれ互換可能にしてあるので、ホルダ支柱と支持具支柱の長短寸法に応じて種々の使用形態

7

で好適に用いることができる。

【0028】そして、本発明に係る釣竿ホルダによれば、上部支柱と下部支柱とに互いに分割されており、第2の枢支部により下部支柱に対し上部支柱が上下左右方向に角度可変に保持されるので、釣竿ホルダそのものにおいて、岩場やテトラポットなどの隙間に打ち込まれた下部支柱がいかなる向きであっても、釣竿を所望の角度で保持することができる。

【0029】更に、前受部と後受部の間にリールの配置空間を設けた場合、魚の引きが大きいときでも、リールは前受部と係合して止められるので、釣竿が海中に持ち逃げされたりしない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る釣竿ホルダ用の支持具を示す側面図である。

【図2】図1におけるA-A線断面図である。

【図3】本発明の別の実施形態に係る釣竿ホルダを示す側面図である。

【図4】図3におけるB-B線断面図である。

【図5】前記釣竿ホルダの斜視図である。

【図6】前記釣竿ホルダを折り畳んだ状態を示す平面図である。

【図7】前記釣竿ホルダの使用状態を示す説明図である。

8

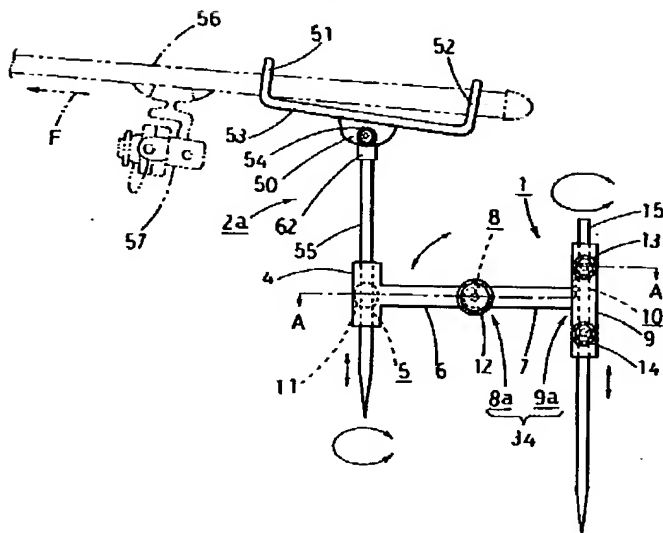
【図8】前記釣竿ホルダの別の使用状態を示す説明図である。

【図9】本発明の更に別の実施形態に係る釣竿ホルダを示す側面図である。

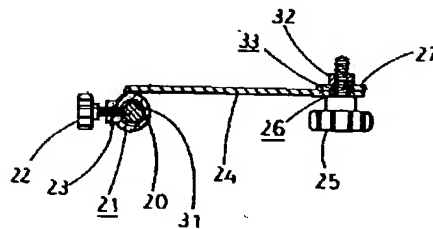
【符号の説明】

- 1 支持具
- 2, 2b 釣竿ホルダ
- 4 支柱固定部
- 8a 上下枢支部
- 4a, 9a 左右枢支部
- 15 支持具支柱
- 20, 62 ホルダ基部
- 28 接続杆
- 29 前受部
- 30 後受部
- 31, 55 ホルダ支柱
- 34 第1の枢支部
- 35 第2の枢支部
- 36 上部支柱
- 37, 37a 下部支柱
- 56 釣竿
- 57 リール
- 59, 61 隙間
- 63 配置空間

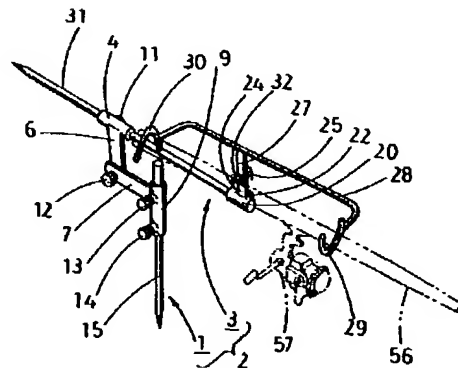
【図1】



【図4】

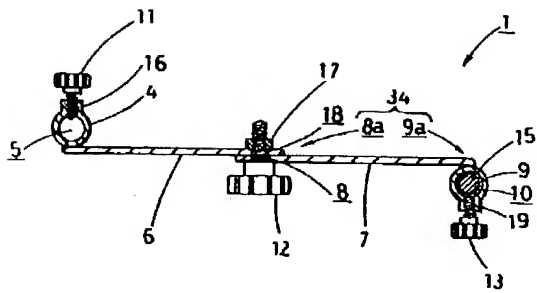


【図5】

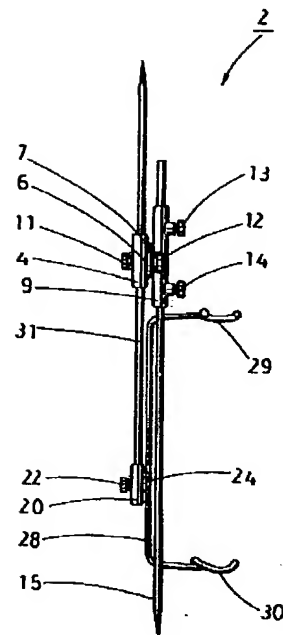




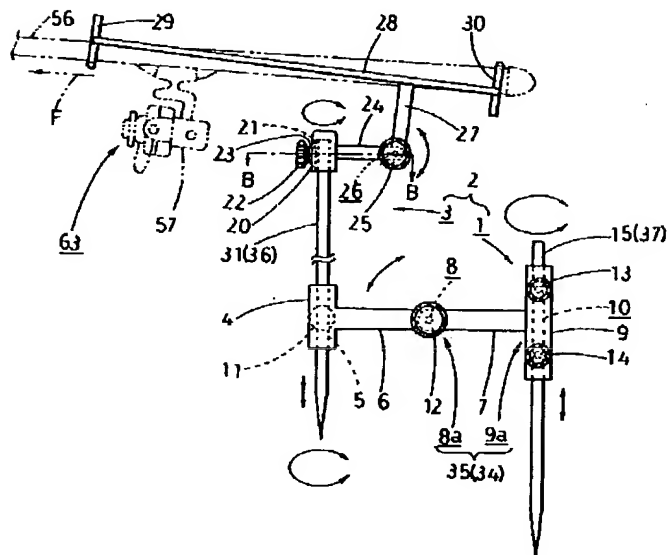
【図2】



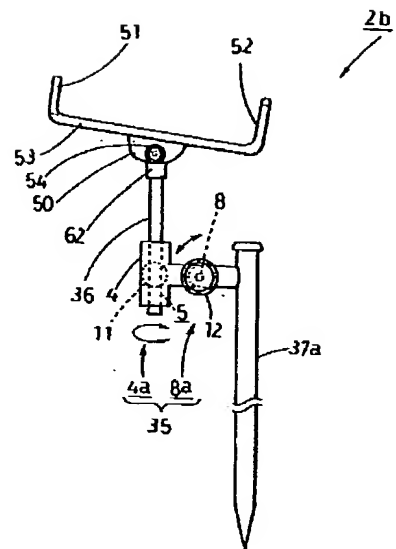
【図6】



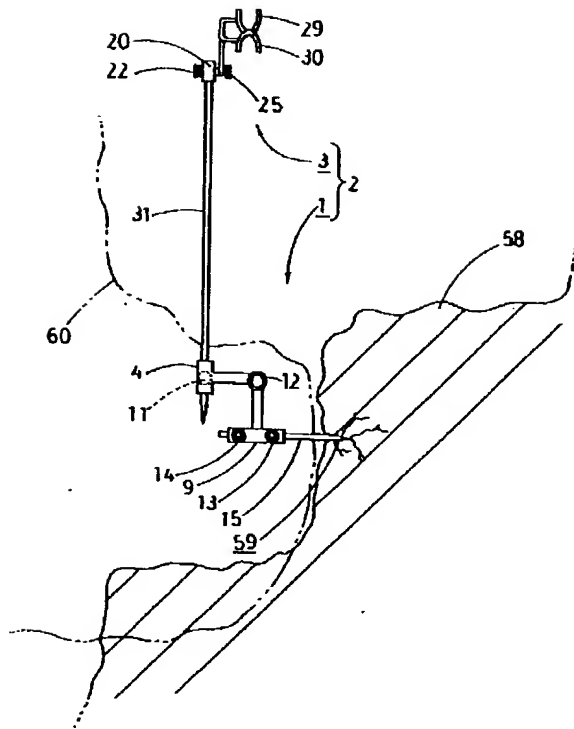
【図3】



【図9】



【図7】



【図8】

